

珠洲・宝立の山道

藩政期の道標あった

珠洲市宝立町柏原の山道で、藩政期に作られたとみられる石の道標が見つかった。約1キロ離れた同町春日野の真言宗法住寺の方向を指し示しており、山道が当時の参詣ルートだったことをうかがわせる貴重な資料で、発見した地元の住民は、道標を同じ場所に再び立てた。

ほこら作った男性確認

道標は高さ約30センチで、宝立。

立町に伝わる弘法大師空海 宮口さんは山道沿いの地の伝説を発信する「宝立町 蔵が野ざらしになっていた空海伝説活用実行委員会」 ことに心を痛め、雨風をしのぐためのほこらを材木で作り、宮口虎治さんのごためにほこらを材木で作り、(72) 同町柏原に見つけ、作っている最中に、付近に



見つけた道標を見詰める宮口さん
—珠洲市宝立町柏原

空海ゆかり法住寺示す

倒れていた道標を見つけ
た。

能登の民俗学に詳しい真宗大谷派西勝寺の西山郷史住職(珠洲市飯田町)によると、道標には「右法住寺 左山道」と刻まれた文字が確認できる。空海が開山したと伝わる法住寺への参詣者や山越えの人のために、法住寺の参詣客が多かった藩政期に作られたとみられるという。

空海伝説活用実行委は宝立地区に残る空海の伝説を広く発信するため、今年8月に「空海伝説マップ」と伝説をまとめた冊子を作り、宝立公民館で配布している。実行委は道標が見つかった山道を、かつて空海が歩いたとされる「空海伝説の道」に指定している。

宮口さんは「訪れた人には道標を見て空海が歩いたかもしれないというロマンを感じながら歩いてほしい」と話した。